

## InterRisk Thai Report <2020 No.01>

### タイにおける新型コロナウイルスへの対応

#### 【要旨】

- タイ保健省によると、2020年2月18日現在、35名の新型コロナウイルス(COVID-19)感染者が確認されています。
- 現時点でタイにおける新型コロナウイルスによる死亡例は報告されていません。
- ウイルス感染者のうち17名は既に回復、帰宅しています。
- ヒトからヒトへのウイルス感染は、主に咳などの飛沫や感染者との接触などによるものです。

#### 1. 2020年2月18日時点の感染者数

タイにおける新型コロナウイルス感染者は2020年1月13日に初めて確認されました。2020年2月18日時点の感染者数は35名で、うち中国籍が25名、タイ国籍が10名です。35名の感染者のうち17名は治療を受けて帰宅しましたが、18名は依然として病院の隔離された部屋で治療を受けており、そのうちの2人は重症です。

表1：タイにおける新型コロナウイルス感染者の詳細（2020年2月18日現在）

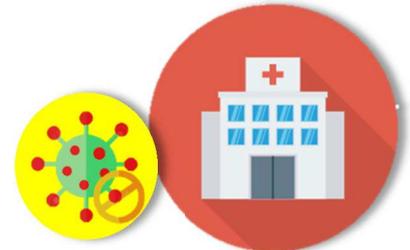
感染者数	国籍	職業等	詳細
25	中国	観光客	湖北省・武漢市からの観光客
2	タイ	タクシー運転手	中国からの旅行者（感染者）との濃厚接触
1	タイ	ミニバン（バス）運転手	中国からの旅行者（感染者）との濃厚接触
1	タイ	小売店従業員	中国からの旅行者（感染者）との濃厚接触
2	タイ	観光客	日本への旅行
1	タイ	医療従事者	感染者の治療対応中、マスク不着用
1	タイ	-	湖北省・武漢市から帰国（2月4日）
1	タイ	-	タイ人感染者との濃厚接触
1	タイ	観光客	湖北省・武漢市への旅行者（2019年末）

## 2. 新型コロナウイルスの検査・治療

タイ疾病管理局（Department of Disease Control : DDC）によれば、新型コロナウイルスへの感染が疑われる場合（咳、喉の痛み、鼻水、呼吸困難のいずれかを伴う発熱）、まず最寄りの病院で受診することが推奨されています。新型コロナウイルスの検査が可能な病院は限定されていますが、その他の病院でも感染疑いを隔離した上で鼻腔内等の組織を採取し、研究所に検査を依頼したケースがあります。検査結果は数日以内に報告されたとのこと。

以下の研究所、病院では新型コロナウイルスの検査が可能です。

- ・ Bamrasnaradura Infectious Diseases Institute（ノンタブリー県）
- ・ Samitivej hospitals（バンコクなど）
- ・ Nakhon Pathom hospital（ナコンパトム県）
- ・ Rajavithi Hospital（バンコク）など



※一部報道によればRajavithi Hospitalで抗HIV薬等の投与により肺炎の症状が緩和されたとのこと。

なお、現時点までの感染者の一部は、一部報道によればQueen Sirikit Naval Hospital（チョンブリー県）で治療を受けているとのこと。

## 3. タイ政府の対応

### 【空港での検疫・渡航制限】

いずれの国、地域にも渡航禁止令は出ていませんが、中国、香港、マカオ、台湾に加え、日本、シンガポールからの入国者は空港での検疫が強化されるスクリーニング\*の対象となります。スクリーニングは、スワンナプーミ、ドンムアン、チェンマイ、プーケット、チェンライ、クラビなどの主要空港を始め、その他28か所の空港で実施されています。上記の国、地域（中国、香港、マカオ、台湾、日本、シンガポール）からタイへ入国し、14日以内にコロナウイルスの症状が出た場合、病院または研究所（Bamrasnaradura Infectious Diseases Institute）へ報告し、検査を受ける必要があります。タイ国内の警戒レベルは「ステージ3（中国人との接触がなくタイ人の間で感染）」に引き上げられており、上記6か国、地域への渡航は延期することが推奨されています。また、やむを得ずこれらの国、地域へ渡航する場合は、防疫対策を万全にするよう通達されています。

※スクリーニング：ターゲットとなる集団に対して実施する共通検査によって、目標疾患の罹患を疑われる対象者あるいは発症が予測される対象者をその集団の中から選別すること。（出典：Wikipedia）

### 【クルーズ船受け入れ拒否】

「新型コロナウイルスの感染者がいる恐れがある」として、タイ政府は2月11日、クルーズ船「ウエステルダム」のタイへの入港を拒否しました。

### 【病院】

発熱、咳などコロナウイルスの症状をもつ患者を受け入れ、スクリーニングするための準備が全ての病院で進められています。また、今後2か月以内に全ての県で少なくとも1か所以上、コロナウイルスの感染有無を5分以内に判定する検査キットが配備される予定です。

## 【ホットライン、ウェブサイト】

タイ疾病管理局はコロナウイルスに関する全ての質問、報告を受け付けるホットライン（1422）を設けています。また、タイ観光庁（Tourism Authority of Thailand : TAT）はコロナウイルスへの感染を自己スクリーニングできるウェブサイトを公開しています（<http://sescimande.net/Self-Screening>：タイ語、英語、中国語対応）。タイ国内における感染者数、経過観察者数、空港での入国拒否人数等はタイ疾病管理局のウェブサイト（<https://ddc.moph.go.th/viralpneumonia/eng/index.php>：タイ語、英語対応）等で確認できます。

図 1：新型コロナウイルス自己スクリーニングウェブサイト（タイ観光庁）

#### 4. 製造業への影響

カシコン銀行によれば、中国での新型コロナウイルスの流行が1～3か月継続すると、2020年の自動車の輸出量が5-7%減少すると推定されています。多くの工場は今般の状況に対して適切な対応を取り通常の操業を継続していますが、原材料の輸入、供給が滞り、従業員への事前の通告なく生産を停止した工場もあるとのこと。特に中小規模の工場では、今後、生産および売上の維持が大きな課題となります。また、新型コロナウイルスの流行が長引き、需要が停滞した場合、生産量の縮小を余儀なくされる可能性もあります。

## 5. 今後の対応

世界保健機構（WHO）は、新型コロナウイルスの流行による社会的、経済的な混乱を抑えるための基本的な戦略、方針を以下のように示しています。

### 【WHOの戦略、方針】

- 濃厚接触者および医療従事者の二次感染を防ぎ、中国からの更なる感染拡大を抑制し、感染の爆発的な拡大を防ぐ。これは、感染者の迅速な特定と管理、濃厚接触者の特定と追跡、医療機関における感染予防対策、旅行者に対する感染予防、各国一人ひとりの意識向上、適切なリスクコミュニケーションによって達成される。
- 感染者の早期発見、隔離および的確な治療
- 動物からの感染ルートの解明
- 重症患者への対応、治療方法等に関する重要な不明点の解明および治療薬、ワクチンの開発
- 的確な情報提供および誤った情報への対処
- 様々な関係機関、業種の協力による社会的、経済的影響の最小化

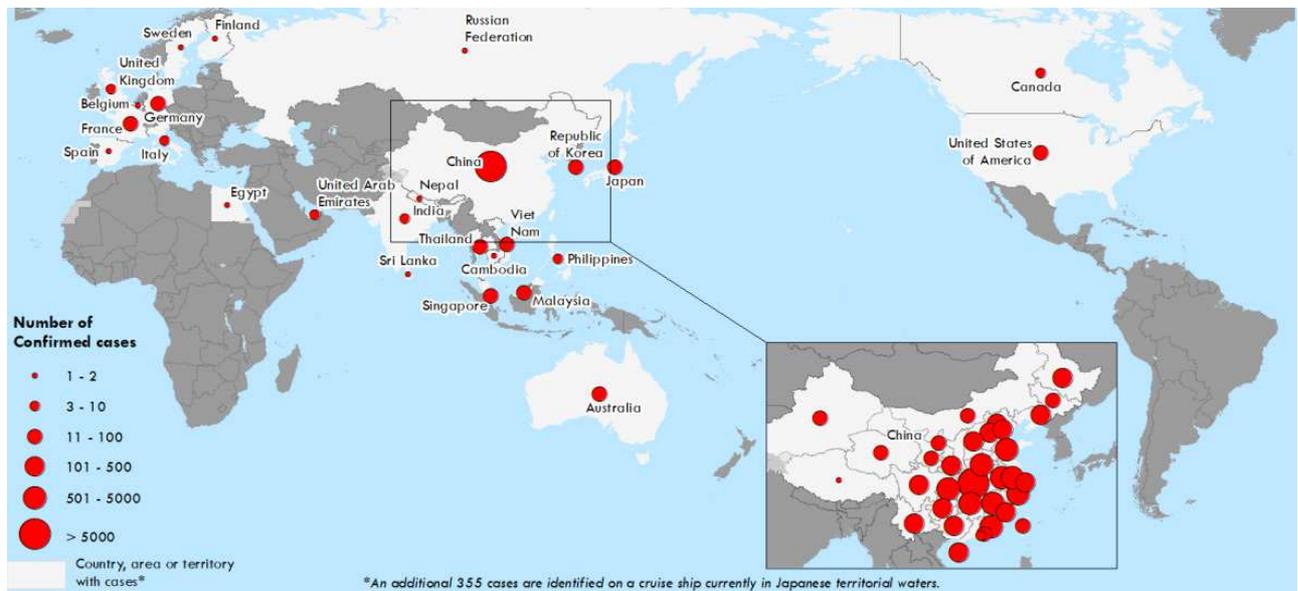


図 2：新型コロナウイルスの感染者分布（2020年2月16日現在：WHO）

一方、企業が取るべき対策の一つとして、従業員が新型コロナウイルスに感染しないよう予防策を徹底することが大切です。そのためにはまず「自らがかからない対策」を、そして、万一、感染した場合には「他人にうつさない対策」を徹底する必要があります（出典：MS&AD InterRisk Report No.19-058）。

### <自らがかからない対策>

#### ①手洗い

ドアノブや電車のつり革など様々なものに触れることにより、自分の手にもウイルスが付着している可能性がある。外出先からの帰宅時や調理の前後、食事前などこまめに手を洗う。

#### ②普段の健康管理

普段から、十分な睡眠とバランスのよい食事を心がけ、免疫力を高めておく。

## ③適度な湿度を保つ

空気が乾燥すると、のどの粘膜の防御機能が低下する。乾燥しやすい室内では加湿器などを使って、適切な湿度（50～60%）を保つ。

## ④人混みや繁華街への外出を控える

感染が拡大してきたら、人混みや繁華街への外出をなるべく控える。

## ＜他人にうつさない対策＞

## ①咳エチケット

咳やくしゃみが直接人にかからないようにカバーする。

- ・マスクを着用する
- ・ティッシュなどで鼻と口を覆う
- ・とっさの時は袖や上着の内側でおおう
- ・周囲の人からなるべく離れる

## ②人混みや繁華街への外出を控える

熱が下がっても数日間はウイルスが体内に残っている可能性があるため、周りの人にうつさないように、人混みや繁華街への不要不急の外出は控える。

## 6. 各国の感染者数

WHOによれば新型コロナウイルスに関するリスクは、中国が「Very high」、その他の国が「High」と評価されています。下表によれば、中国を除いて日本、シンガポールの感染者数が最も多く、タイは6番目です。

表2：各国の感染者数（2020年2月18日現在）

国（情報源）	感染者数	死亡者数	回復者数
中国 (National Health Comm. Of PRC)	74,137	2,002	14,376
シンガポール (Ministry of Health)	81	0	29
日本 (NHK)	74	1	18
香港 (Centre for Health Protection)	62	1	2
韓国 (Ministry of Health and Welfare)	46	0	12
タイ (Ministry of Health)	35	0	15
マレーシア (New Straits Times)	22	0	11
台湾 (Ministry of Health and Welfare)	22	1	2
ベトナム (Ministry of Health)	16	0	7

出典：thewuhanvirus.com

## 7. 過去の類似例との比較

過去に流行したコロナウイルス（SARS、MERS）との比較を下表に示します。

表3：過去の類似例との比較（出典：MS&AD InterRisk Report No.19-058）

	SARS	MERS	新型コロナウイルス
発生年	2002年	2012年	2019年
主要な感染国	中国、インド、ベトナム、カナダ等	ヨルダン、サウジアラビア、UAE等	中国、日本、シンガポール等
感染経路	咳などによる飛沫感染や接触感染	咳などによる飛沫感染や接触感染	咳などによる飛沫感染や接触感染
潜伏期	2日~10日	2日~14日	1日~14日
症状	発熱、悪寒、筋肉痛など、突然のインフルエンザ様の症状で発症する。その後、重度の咳、呼吸困難が見られる。	発熱、咳、下痢のほか、呼吸困難、多臓器不全や敗血性ショックが見られる。	代表的な症状として、発熱、咳、呼吸器症状、呼吸困難など。
感染予防策	<飛沫・接触予防策> ・手洗い、うがい、マスク着用、体力や免疫力の増強をはかる、人混みへの外出を控えるなど	<飛沫・接触予防策> ・手洗い、うがい、マスク着用、体力や免疫力の増強をはかる、人混みへの外出を控えるなど ・感染地でのヒトコブラクダの接触を避ける	<飛沫・接触予防策> ・手洗い、うがい、マスク着用、体力や免疫力の増強をはかる、人混みへの外出を控えるなど
感染力	1人から1人以下(家族間、医療機関内での限定的なヒト-ヒト感染)	1人から1人以下(家族間、医療機関内での限定的なヒト-ヒト感染)	<未確定> ・2.6人 <sup>*1</sup> ・3人超 <sup>*2</sup>
致死率	9.6% (774人/8,096人)	34.4% (858人/2,494人)	<未確定>2% <sup>*3</sup>
日本での感染者	なし	なし	あり

\*1: 英インペリアルカレッジロンドン

\*2: 米ランカスター大学

\*3: WHO (2020.2.18)

## 8. 結論

現在、多くの国、関係機関の協力の下、新型コロナウイルスを封じ込めるべく、あらゆる対応が図られています。中国では感染疑い者数が減少しているとの報告もあります。2002年に発生したSARSの流行では、感染者数の減少、ウイルスの抑制に4か月を要しました。今後数か月間、最善の方針、対策、および準備を継続することが重要です。

InterRisk Asia (Thailand) Co., Ltd. Nareerat Moottatarn

参照

<https://reliefweb.int/country/tha>, <https://ddc.moph.go.th/viralpneumonia/eng/index.php>  
<https://www.who.int/emergencies/diseases/novel-coronavirus-2019/situation-reports>  
<https://www.bangkokpost.com/thailand/general/1859884/japanese-and-spore-arrivals-screened>  
<https://asia.nikkei.com/Business/Companies/Hoya-weighs-factory-slowdown-in-Vietnam-and-Thailand-on-virus-impact>  
<https://kasikornresearch.com/en/analysis/k-econ/business/Pages/z3079.aspx>  
<https://www.nationthailand.com/business/30381466>  
<https://dou3uzl0r1qje.cloudfront.net/wp-content/uploads/2020/01/coronavirus-EN.gif>  
<https://reliefweb.int/sites/reliefweb.int/files/resources/20200216-sitrep-27-covid-19.pdf>  
<https://www.pharmaceutical-technology.com/features/coronavirus-affected-countries-thailand-measures-impact-tourism/>  
<https://thethaiger.com/hot-news/coronavirus/new-coronavirus-case-brings-thailand-total-to-35>  
<https://thewuhanvirus.com/>

MS&AD インターリスク総研株式会社は、MS&AD インシュアランスグループに属する、リスクマネジメントに関する調査研究およびコンサルティングを行う専門会社です。タイ進出企業さま向けのコンサルティング・セミナー等についてのお問い合わせ・お申込み等はお近くの三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保の各社営業担当までお気軽にお寄せ下さい。

## お問い合わせ先

MS&AD インターリスク総研（株） 総合企画部 国際業務グループ  
TEL.03-5296-8920  
<https://www.irric.co.jp/>

インターリスクアジアタイランドは、タイに設立された MS&AD インシュアランスグループに属するリスクマネジメント会社であり、お客様の工場・倉庫等における火災リスク調査や洪水リスク評価、ならびに交通リスク、サイバーリスク等に関する各種リスクコンサルティングサービスを提供しております。お問い合わせ・お申し込み等は、下記の弊社お問い合わせ先までお気軽にお寄せ下さい。

## お問い合わせ先

InterRisk Asia(Thailand) Co., Ltd.  
175 Sathorn City Tower, South Sathorn Road, Thungmahamek, Sathorn, Bangkok 10120, Thailand  
TEL: +66-(0)-2679-5276  
FAX: +66-(0)-2679-5278  
<https://www.interriskthai.co.th/>

本誌は、マスコミ報道など公開されている情報に基づいて作成しております。  
また、本誌は、読者の方々に対して企業の CSR 活動等に役立てていただくことを目的としたものであり、事案そのものに対する批評その他を意図しているものではありません。